

○国政報告会のお知らせ

鈴鹿：6月28日(水) 午後7時

鈴鹿市文化会館(さつきプラザ)

四日市：7月14日(金) 午後6時半

四日市市文化会館(2F・第3ホール)

楠：7月15日(土) 午後7時

楠福祉会館(2F・教養娯楽室)

亀山：7月17日(祝) 午後6時半

亀山市文化会館(2F・会議室)

※お問合せは 中川正春三重事務所 までお願い致します。

○ついに通常国会が終了

国会が終わりました。いつものような延長もなし、内閣不信任案の採決もありません。最後は、気の抜けたココロのようです。

小泉内閣の功罪については、次の自民党総裁が決まる9月に改めて書くとして、ここでは、私自身がこの通常国会でやったこと、やれなかったことを総括します。

議院運営委員会の野党筆頭理事としては、この国会会期中に採決をさせてはならない法案について、徹底して抵抗しました。その結果、国の基本を論じるために国民全体の議論が必要な「憲法改正に関する国民投票法案」や「教育基本法案」などは、次の臨時国会に継続審査となりました。医療法は、本当はもっと時間をかけたのですが、最後に採決されてしまいました。しかし、民主党が対案として出した、喫緊の課題「ガン対策基本法」が与党との折り合いが付き成立したことは、嬉しかった。民主党の山本孝史参院議員が、がん患者として、その思いの中で演説した本会議での言葉一つ一つが与野党の議員の胸を突き動かしました。

私の提出した議員立法・北朝鮮人権法も、与党案と一本化させて成立までこぎつけることができました。拉致問題に加えて広く北朝鮮から脱出してくる難民の救済をうたったことで、これから沢山の命が救えることになりました。

国会の中の改革も、一定の成果を見ました。特に議員宿舎については、私が主張した入居基準の厳格化で、

赤坂に建つ新しい宿舎 300 戸以外は、必要がなくなる可能性が出てきました。余分な土地の売却益に加えて、金額にして新築費 100 億円近い節約です。身近で大事なことでは、修学旅行をはじめ国会見学に来てくれる人々の「満足度」を飛躍的に上げると、事務局を督促して、具体的な計画作りを急がせています。

思うようにいかなかったのは、国会ルールの見直しです。国会は、前例主義の積み重ねです。民主党は与党に比して、3 分の 1 の議席数です。前例主義でガチガチになっている国会ルールに基づいて審議を進めれば、その存在感は、ゼロに等しい。だから、与野党が真っ向から対立したときの私たちの最後のよりどころは、審議拒否、乱闘、フィリバスター(時間無制限演説)などルール想定外のアクションです。やっていて、本人たちは正直、なかなか面白いのですが、国民の目から見れば、「何やってんだ、国会は。」です。この苦しさを克服できる国会ルールの改正を模索したのですが、最後まで知恵は浮かばずでした。

私にとって、議院運営委員会は、貴重な経験を積むステージとなり、仕事も楽しむことができました。

○三重県にドクターヘリ導入を

全国的にドクターヘリの導入が進んでいます。三重県にも欲しいという話がありました。災害や事故が起こったときに、ヘリコプターに医者と看護師を乗せて現場まで直行する仕組みを作れということです。現在は、和歌山県のドクターヘリが紀州地域の一部をカバーしていますが、他はありません。三重県には、警察に小型ヘリが一機、災害救助用に 15 人乗りヘリが一機あります。災害救助用ヘリの出動回数は、年間 37 回。その半分が地域病院から中枢病院に患者を搬送するための業務。後の半分が、山などでの遭難者や災害などの被害者の救出です。医者は一緒に乗せていないと言います。ドクターヘリは、厚生労働省の補助事業で、医療センターなどの医者の協力が必要です。防災ヘリは、総務省の管轄で消防などと同じです。「この二つの事業をくっつけて、運用すれば、ドクターヘリができるじゃないか。」こう言って、三重県型災害、救急システムを作ることを提言しています。